

令和6年度 第5回 大学院セミナー

令和6年4月9日

| | |
|---------------------------------------|---|
| 分野名 Area of Research (責任者名)(内線) | 細胞生物学分野 責任者名(松下 祐樹) 内線(7633) |
| 演題 Title | 長崎大学で始めた研究のその後と 今後の歯学研究の展望 |
| 講師等 Presenter | 東京歯科大学口腔科学センター 客員教授 山口 朗 先生 |
| 概要 Abstract | <p>私は 1998 年 12 月から 2004 年 3 月まで長崎大学歯学部口腔病理学分野を担当し、自分の研究室を主宰する楽しみ、苦労を経験させていただいた。長崎大赴任時に「まだ誰もやっていない研究をやろう」と考えました。実際に2つの研究を開始した。1つは「脊椎動物の骨格の進化的変遷」です。この研究は、森石武史君を中心として色々な脊椎動物の骨格を解析し、カエルの骨格はカルシウム貯蔵庫としての機能を持っていないという仮説を生み出すことができた。他は、「骨再生初期で発現する遺伝子の解析」です。この研究では柴田泰明先生、塚崎智雄先生が中心となり、GeneChip 解析で骨再生初期に高発現した CCN3 が Notch と関連することを見出した。この結果は東京医科歯科大に移動後、松下祐樹先生が CCN3 は骨再生の抑制因子であることを証明する基盤となった。さらに、Notch シグナルが FGF23 を制御するという発見にも至り、現在も継続中です。本講演では、これら2つの長崎大学で始めた研究とその後を紹介したい。</p> <p>最近、歯学界から他の研究領域に大きな影響を与える研究者が芽生えているが、各歯学部の研究レベルの向上も大きな課題となっている。この点に関して、参考までに東京歯科大学の研究体制改革の戦略を紹介したい。</p> |
| 開催日時 Date and Time | 令和6年 5月 9日(木) 17:30 ~ 19:00 |
| 開催場所 Online/Face to face | 対面(歯学部 C 棟 3B) |
| 備考 Notes | |

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)